

平成28年4月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	平成28年4月19日(火)		
2 開会及び閉会	開会	14時5分	
	閉会	15時5分	
3 出席委員	委員長	東 條 光 彦	
	委員	奥 津 晋	
	委員	塩 田 澄 子	
	委員	藤 原 佳 代 子	
	委員(教育長)	山 脇 健	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	安 田 充 年	教育次長	天 野 和 弘
統括審議監(企画調整担当)	小 西 洋 史	審議監(学校教育担当)	三 宅 泰 司
審議監(生涯学習担当)	後 河 正 浩	審議監(教育人事財務担当) (人事財務課長事務取扱)	石 井 雅 裕
幼児教育専門監 (保育・幼児教育課長事務取扱)	山 内 徳 子	教育企画総務課長	赤 野 政 治
学校施設課長	齋 藤 和 美	学事課長	奥 橋 健 介
学事課移譲担当課長	原 直 樹	指導課長	岡 林 敏 隆
指導課教育支援担当課長	松 浦 敏 之	保健体育課課長代理	泉 利 絵
教育研究研修センター所長	中 島 陽 子	中央図書館長	宮 本 嘉 彦
中央公民館館長補佐	黒 瀬 高 弘	地域子育て支援課課長補佐	田 中 光 彦
事務局(教育企画総務課主査)	生 田 裕 宣	事務局(教育企画総務課主任)	大 西 正 記
5 議題及び結果			
報告第14号	専決処理の報告(岡山市立学校に勤務する県費負担教職員の標準的な職に関する規程の制定について)		承認
第7号議案	岡山市教育振興基本計画平成28年度アクションプランの決定について		可決

6 教育長等の報告 [平成28年3月12日(土)～平成28年4月8日(金)]

3/20	第2回 OKAYAMAスマホサミット2016	指導課
3/21	イングリッシュカフェ(OSS)	地域子育て支援課
3/26～30	岡山市子ども会インリーダー研修会	地域子育て支援課
3/26～31	岡山市子ども会ジュニアリーダー研修会	地域子育て支援課
3/27	岡山市ジュニアオーケストラ「第18回スプリングコンサート」	地域子育て支援課

東條委員長 教育支援担当課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ スマホサミットの概要や趣旨はどういったものか。 ○ 岡山スマホサミットは、岡山県教委と岡山市教委、山陽新聞社がそれぞれ主催という形で行っている。今年度は3回行い、その後全体で成果発表会を行う予定である。 今回は中学校が25校集まって、各学校の生徒会から2名ずつの参加であり、加えて、引率する教員が参加した。グループに分かれ、まず前半で各学校の取組を協議し、課題を話し合い、後半では、引率の先生のみが集まり、各学校の課題を話し合った。生徒たちは、このスマホサミットで何かひとつ取組はできないかということ話し合ったものである。
東條委員長 教育支援担当課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ これは、事前に案内をもらっていたものか。 ○ 教育委員の皆様にご案内したか、今は確認できない。次回は5月15日(日)に山陽新聞社本社で行う予定になっている。また案内申し上げる。
教育長 教育支援担当課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒会だけで集まって何か方向性が出たのか。 ○ 後半の話合いでは、ポスターづくりについて話し合っていたということを知っている。
教育長 教育支援担当課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前半のグループごとのところだけしか私はいなかったもので、後半はどうなったのかと思った。 ○ 後半の部分は、引率教員のほうで分かれていたので、詳しい内容はわからないが、統一でポスターをつくらうというような話になったと聞いている。
藤原委員 教育支援担当課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 25校の参加と言われたが、残りの中学校はどうか。希望校が集まったということなのか。 ○ 岡山県内の25校が集まり、岡山市立学校は3校であった。岡山中央、足守、福浜の3中学校が自主的に手を挙げて参加した。
藤原委員 教育支援担当課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 良いことだと思うから、その3校の情報が、ほかの学校にどのくらい伝わるのかということと、PTAは関係しているのかどうか。 ○ 特に今回のことにPTA協議会は関係していない。
藤原委員 教育支援担当課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一昨年ぐらいに岡山県が9時で携帯は控えるようにというようなことがあり、それを実践しているのが岡山市でどの程度かというのとはわからない。しかし、県や市それぞれ分けている場合ではないかという項目なので、3校が参加することで、その後の広げ方をぜひ工夫して欲しい。 ○ 岡山市では、昨年度、全小中学校で、子どもたちが中心となって話し合い活動をする中で、家庭でのルールづくりの提案書をまとめている。まとめた提案書とそれまでの取組の顕著な学校例を全部、全ての学校に配布している。岡山市内の全校でどんなことをして、どんな提案書ができて、どんな取組をしているのかということ共有している。そして、今年度は8月に岡山市の中学校の生徒会の集いというものを新たに企画し、そこでも、この3校を含めた取組の情報交換を行おうと考えている。
藤原委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ かなりいろいろと実施しているということはわかるので、先ほどの開催の案内とともに、そういう成果物のようなものも、我々にも見せて欲しい。それにより、我々教育委員も提案等できると思われる。
東條委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ ほかはいかがか。

<p>奥津委員 地域子育て支援課課長補佐</p> <p>塩田委員 地域子育て支援課課長補佐</p> <p>塩田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 岡山市子ども会の2つのキャンプ、同じ日程で、参加者も大体同じぐらいであり、人数も割と多いと思うが、個々の概要説明をお願いします。 ○ まず、3番の岡山市子ども会インリーダー研修会は、新小学校6年生を対象にした4泊5日の研修会となっている。新しく、それぞれの地区で子ども会活動を引っ張る、リーダーを育てる目的で開催している。少年自然の家で班を組んで、お互いに助け合うということ学びながら活動した。 そして4番の岡山市子ども会ジュニアリーダーのほうであるが、これは新中学1年生になる子以上を対象にしているものである。主に中学生、高校生が参加している。これは5泊6日で行った。鑑水キャンプ村で開催したが、水、電気がない所で、トイレも自分たちで作って生活をするという少しレベルの高いキャンプをして、リーダー研修を行ったものである。 ○ 指導者はどういった方になるのか。 ○ まず、3番のインリーダー研修会だが、これは岡山大学の児童文化部を中心にして、市の職員や岡山市子ども会育成連絡協議会の方はオブザーバーという形で関わっている。そして、4番のジュニアリーダー研修会であるが、これは子ども会にポパイズという組織があるが、中学生、高校生が中心となっている。その子たちがそれぞれのグループを運営できるようにということで、さらにその上のシニアリーダーたちが中心となっている。これもインリーダーと同じように、市の職員それから岡山市子ども会育成連絡協議会、子ども会の人たちのオブザーバーという形で見守っているものである。 ○ 大学生や中高生が中心となっているということは非常に心強く、頼もしいと思った。
<p>7 議事の概要</p>	
<p>委員長</p> <p>全委員 委員長 全委員 委員長 全委員 委員長</p> <p>委員長 学事課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4月定例岡山市教育委員会を開催する。 ○ 本日の傍聴希望者は1名。入室してもらってよいか。 ○ <承認> ○ 日程第1、会期は本日1日限りとしてよいか。 ○ <承認> ○ 日程第2、3月定例会の議事録に問題はないか。 ○ <承認> ○ 日程第3、教育長等の報告、事業報告について質問はないか。 (会議録6「教育長等の報告」に記載) ○ 報告第14号を学事課から報告願う。 ○ 岡山市立学校に勤務する県費負担教職員の標準的な職に関する規程の制定について、岡山市教育委員会事務処理権限規則第6条第1項の規定により専決処理したので、報告し、承認を求めるものである。 提案理由としては、地方公務員法の一部改正に伴い、岡山市立学校に勤務する県費負担教職員の標準的な職を定めるため、本訓令を制定する必要性が生じたが、教育委員会に付議する時間的余裕がなかったため、平成28年3月31日に専決処理したものである。 このことについては、本来であれば昨年度末に市費の職員について定めた人事財務課の議案と同時期に提出すべき議案であったが、県費負担教職員については、人事評価に係る標準の職や標準職務遂行能力は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第44号により、県費である今年度は岡山県教委の計画のもと市教委が行うこととなっているため、岡山県で議決されるのを待っていた結果、間に合わなかったものである。岡山市立学校に勤務する県費負担教職員の標準的な職に関する規程を定め、本年度4月1日から施行していく。

<p>東條委員長 藤原委員</p>	<p>資料の1は、これに関係する法令である。 また、資料2は、参考としてであるが、標準職務遂行能力について定めている。</p>
<p>学事課長</p>	<p>○ これについて、いかがか。 ○ 人事考課とも関係しているかと思うが、職務遂行能力のところで、コミュニケーションがある職とそうでない職がある。比較的上に立つほうはコミュニケーションを書いてないが、副参事など、そういう立場の人にはコミュニケーションというものが必要である。しかし、上司や同僚と関係を作るということは、主幹教諭や指導教諭も含めて、みんな必要なのかなと思い、とりたてて規定するということが意図としてはどうであるか。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ これ自体は、先ほども申し上げたとおり県が最終的には作っているため、市が意見を述べるところはない。ただ、観点としては職務遂行能力等によって適正に評価する中で、例えばこれが人事評価や給与に反映するであるとか、昇級・昇任に反映するであるとか、そういうものに関与するものである。本来の職務としてコミュニケーションが職務内容に必要なかどうかということ判断されたというのは聞いている。</p>
<p>学事課長</p>	<p>○ 今後を考えるときのベースとして、例えばいろんな問題も現場で起きることがある。コンプライアンスも大事であるけれども、コミュニケーションがとれないところでの問題もあると思う。考えるときにコミュニケーションをどういうふうに入れるか、どういう職に必要なのか、もちろん言わずもがなのことで全部の職には必要であるけれども、とりたてて入れるのはどういう意味があるのかということ、今後税源移譲された後には考えてみても良いのだろう。</p>
<p>東條委員長 教育長</p>	<p>○ 今いただいた意見のとおり、29年度か本年度中に決めることになるが、市独自でこれらの部分は定めていく。またご意見を参考にして考えていきたいと思う。</p>
<p>学事課長 東條委員長 全委員</p>	<p>○ ほかはいかがか。 ○ 小・中の1の箇所、ここだけ講師になるのか。ほかは講師といえは高等学校の講師のことを言っているのか、義務教育の講師を言っているのか。</p>
<p>東條委員長 教育企画総務課長</p>	<p>○ これは小・中・高である。 ○ いかがか。 ○ <承認></p>
<p>東條委員長 教育企画総務課長</p>	<p>○ 続いて、第7号議案。教育企画総務課から説明をお願いします。 ○ 平成28年度の教育振興基本計画アクションプランの案についてご説明する。 アクションプランは、岡山市教育振興基本計画の単年度の実施計画である。28年度のアクションプランは、昨年度までの構成を基本としながらも、外部評価委員や教育委員の皆様からいただいた意見を踏まえ、主に3つの点から変更をしている。 1つ目が掲載事業の選択と集中を行った。2つ目は、クローズアップの事業について、その事業の必要や重要性がわかるようにした。3つ目は、各事業で各施策のつながりがわかるような構成にしている。 それでは、アクションプラン案についての資料をご覧いただきたい。意見を反映した点や変更点を中心に説明する。 1ページである。まず、岡山市の教育が目指している人づくりのイメージ図を掲げ、目指す子ども像をイメージしている。また、人権尊重の理念に基づいて全ての教育行政を実施していること。全ての教育活動にESDの視点を生かしていくところを示している。 2ページをご覧いただきたい。ここではアクションプランについての説明を</p>

記載している。このページの変更点は、教育振興基本計画のプランを平成28年度までとしている。また、ESDの推進という言葉を追加している。

3から4ページである。施策事業体系図、黒い星印が新規の事業となっており、政策1の1、道徳地域教材資料集の作成、配付、政策2の1、英語教育推進の事業、政策5の2、インターネット予約図書受取、返却窓口拡充事業、政策6の2、若手教職員の育成事業のこの4つが新規事業となる。

なお、このリストから外れた事業もある。例えば、道徳の時間の充実、教育相談室、適応指導教室の運営、地域の課題に関する資料、情報の提供などは、日常的な業務の一つということから、掲載を取りやめたものである。また、みんなで集める情報たから箱事業、吉備公民館地域センター事業は、整備が完了したため掲載を取りやめている。そのほかにも、事業の選択と集中という観点から掲載を取りやめたもの、2つの事業を1つにまとめたものなどがある。教育振興基本計画の施策の内容を踏まえて、掲載事業の選択と集中を行った結果、前年度82事業があったが、今年度は75事業へと7つ減っている状況である。

4ページの下、枠内に事業群についての説明があるが、新たに教職員育成プロジェクトを追加している。

次に、5ページからのクローズアップについてである。クローズアップには、平成28年度の事業の中から、重点的かつ施策横断的に取り組む事業を挙げている。教育課題別に政策や施策の枠を超えて複数の事業がどのように連携して取り組んでいるのかがわかるように示している。全ての事業は市民協働、人権尊重という2つの理念と岡山型一貫教育、地域協働学校という2つの柱、そして本市が推進するESDの視点に基づき実施していることを明示している。テーマごとの喫緊の教育課題を解決するために、岡山市教育振興基本計画の6つの、どの政策とかかわる事業を連携させながら、重点的に取り組んでいくのかを示している。

なお、それぞれのテーマの課題解決に向けては、クローズアップ以外の事業も連携させながら、横断的な取組を実施していく。

6ページからであるが、テーマ別に見開きの左のページに現状と課題を、右のページに重点的に取り組む事業を掲載し、どのような状況、背景を受けてその取組が重点的に行われるのかがわかるようにした。

6、7ページであるが、1、学力向上への取組の推進についてである。学力向上に関する課題を授業力、英語教育の充実という観点で分類整理し、それぞれ側面からの課題解決の取組を右半分に掲げている。事業名の頭に拡充とついているものは拡充する事業、新規とついているものは新規事業である。これからは拡充する事業と新規事業を中心に説明をさせていただく。授業力についてであるが、無解答率が全国よりも高いという現状を示している。また、市内に統一して「めあて」を示し、その「めあて」に対応した「まとめ」をする取組を推進し、学校の授業はわかりやすく楽しいと感じている児童・生徒が増えていく。今後はさらに授業の質を高めていくことが課題であると考え、その課題を解決するために岡山っ子学力向上推進事業を拡充し、重点的に取り組んでいく。ここでは、新規に実施する岡山市学力アセスが目玉となっている。英語教育の充実ではグローバル化に対応した教育に向けて、文部科学省から英検3級以上相当の英語力を有すると思われる生徒数の割合を平成32年度には60%にするという目標が示されている。本市の平成26年度の実態は29.2%、27年度の実態は39.6%と改善されたものの、低い状態であり、子どもたちの英語力向上に向けて、教師の英語力、指導力の向上や英語を使う教育環境の充実を図る必要がある。その課題の解決に向けて、新規事業として英

語教育推進事業に重点的に取り組んでいく。

8ページ, 9ページである。学校問題の解決では、道徳性の育成, 未然防止, 早期解決という3点で分類整理している。道徳性の育成については、本市では、思いやりの心や規範意識, 向上心を持った岡山っ子の育成を目指した道徳教育を推進している。国の動きとしては、平成30年度に小学校で、31年度には中学校において特別の教科道徳が実施される。

また、岡山市の実態として、自尊感情は高い傾向にあるが、暴力行為については依然として全国よりも高く、思いやりの心や規範意識を育むために、道徳の時間をさらに充実させていくことが課題である。

右ページにあるように、はぐくむ心・あったかハート事業を拡充, 実施し、重点的に取り組んでいく。ここでは、新規に実施する道徳地域教材資料集の作成, 配付が目玉となっている。未然防止, 早期解決では、不登校の出現率が中学校では下がったが、小学校では依然として高くなっている。このため、小学校では不登校児童生徒支援員のさらなる活用が求めている。また、本市では学校問題の解決に向けて、早期発見による対応や問題行動等を生みにくい学校環境づくりに重点を置いて取り組み、特に学級環境づくりでは学級適応感を図る検査, hyper-QU, ASSESS を活用した取組を進めている。右ページにあるように、引き続きストップ・ザ学校問題に重点的に取り組んでいく。

10, 11ページである。3, 教職員の資質能力の向上では、人材確保, 人材育成という観点で分類整理している。平成29年度から教職員の給与負担に係る税源が移譲されることを契機として、今年度から岡山市単独で採用試験を実施することにより、実施方法の改善や特色ある取り組みの導入をスピーディーに進め、人材確保を図っていく必要がある。

右ページのように、拡充実施の特色ある岡山市教職員採用試験実施事業に重点的に取り組んでいく。また、人材育成という観点から、教職員の大量退職, 大量採用の時代を迎えるに当たり、特に若手教職員の指導力向上が急務となっている。10ページ下の図のように、初任者研修と5年経験者研究の合同研修や2年目研修と指導教諭研修の合同研修など、先輩教職員が若手教職員に技や思いを伝えていく機会を拡大していくことで、若手教職員の指導力向上を目指しながら先輩と若手がともに学び合い、互いに資質能力の向上が図られるよう若手教職員の育成事業を新規に実施し、重点的に取り組んでいく。

12, 13ページである。4, 教育環境の充実では、かかわり, 安全・安心, 地域社会の教育力の観点で分類整理している。かかわりでは、平成27年度から教職員の負担を軽減し、子どもと向き合う時間を確保する取組に重点的に取り組んでいるが、84.1%の教職員が子どもとの向き合う時間の不足を感じており、さらなる対策が必要と考えている。この課題を解決するために、学校支援ボランティア事業を拡充して実施し、学生ボランティアがこれまで以上に子どもたちとかかわることで、教職員を支援できるような活動に重点を置いた取組を進めていくことを考えている。

安全・安心では、安心して学べる教育環境の整備に向け、学校園や公民館の耐震改修整備などに重点的に取り組んでおり、学校が安全に配慮していると感じている保護者は増えている。引き続き学校園や公民館の耐震改修整備事業を拡充して重点的に取り組んでいく。

地域社会の教育力では、公民館のない操山中学校区への新築が必要であること、また図書館では、インターネット予約での利用者が増えてきていることにより、市民サービスの向上を図る必要がある。重点的に取り組む事業としては、拡充実施する操山地区公民館建設事業と新規のインターネット予約図書の実取, 返却などの拡充事業がある。

	<p>なお、今回は特に学力向上と若手教職員の人材育成に重点を置き取り組んでいきたいと考えている。このこともあり、表紙には、昨年度の初任者研修講座の写真を掲載しているところである。</p> <p>14ページからは、事業の一覧、各事業と各施策のつながりがわかるように、各ページの一番上に施策運営と施策の内容を示すようにした。</p> <p>裏表紙に参考をつけている。政策及び施策の成果指標の現状値と目標値を一覧に示している。今回平成27年度実績値を新たに掲載している。</p> <p>以上である。今回、本アクションプランの案を審議いただき決定になれば、6月議会で報告する予定である。ご審議のほどよろしくお願いする。</p>
東條委員長	○ これに関して従来から説明をいただいて、こちらからの意見を申し上げて修正をいただいているというところで、内容はほとんどご存じのことがあると思うが、ご覧いただいて、ご意見があればいただきたい。
東條委員長	○ 確認であるが、9ページで触れられている道徳性の育成関係、地域教材資料集の作成というものがある。これの進捗状況はどうか。
指導課長	○ これは、実は県の教育委員会と合同で作成を進めており、全県でいろいろ地域に貢献をした、そういった人物等の話題をもとに、道徳の読み物資料をつかって、それを子どもたちに提供しようというものである。 <p>今年度、そのプロジェクトチーム、主に小学校のほうであるが、小学校の道徳に造詣の深い校長先生や教諭の方、それからもちろん県の義務教育課と私も指導課の道徳担当がチームをつくり、数回協議を重ねて案を作っていくという状況である。その際には、我々の先輩の方が残してくださっている読み物資料、そういったものの活用を考えているところである。</p>
東條委員長 指導課長	○ 完成はいつごろになるのか。 <p>○ 今年度末には印刷製本を完了し、来年度、小学校の各学級に1冊という基準で配布していこうと考えている。</p>
藤原委員	○ 登場する人物の人は、アンケートなどをとるのか、県で今まで検証されてきた人物もたくさんいると思うのだけれども。
指導課長	○ 基本的には、そのチームの先生方、委員の方のご意見が中心になっている。今のところ学校その他第三者からの意見を聴取するという予定はない。岡山市の関係では、例えば津田永忠や石井十次、そういった辺りの方の功績が一つの材料になるのではないかと考えている。
東條委員長	○ もちろんほかの項目でも結構であるので、お気づきのことはあるか。
東條委員長	○ 構成としては、前回は話題に出たけれども、見なれた者にとってはとても見やすいものになっているが、ただ学校に配付したときに、先生方がぱっと見て、なじみやすいかどうかという点で事業を追って見るのではないと思うが、学校でのなじみ具合はどうか。
指導課長	○ 毎年送付があるが、職員室あるいは先生方が集うところに掲げて、いつでも手にとれるような状況で置いている。折に触れて先生方に見ていただいているという状況である。
東條委員長	○ 昨日の校長会でもこういう話が出て、校長先生方は十分にご存じだと思うけれども、こういうことを具体的にしてくださるのは先生方だと思うので、職員会議等々でいろいろと触れる機会があると思う。これはとてもいい計画なので、よく知っていただけるように工夫をしていただきたいと思います。
塩田委員	○ 私もこの活用法はとても大切かと思っているが、特に今年若手教員の教育力向上をクローズアップしており、また来年から岡山市独自で採用されるということであれば、希望者に対してはこれをしっかり、岡山市がどういう方向性になっているのかというようなところで読んでいただきたいと思う。そういう方が学校に入って、これがあるということを知っていれば、今年度はどうい

<p>藤原委員</p>	<p>ころがクローズアップされているのか興味を持つ。下からじわじわとこういうところに興味が広がっていくようになったら良いと思った。</p> <p>○ 例えば校長先生が校長会でこれを聞いてきて、教職員の人に伝えようと思ったときに、例えば8ページから13ページのあたりの抜粋の大きな柱を示したいとすると、図式が一番わかりやすい。模式図のようなものなど。そういう目で見ると、この12、13ページは読むだけになる。今回はもう時間がないと思うが、ぱっと目で見たとときに、教職員の人が忙しい中でも見ようかと思うようなもので抜粋ができれば、より活用ができるのかなと思っている。</p> <p>10、11ページの教職員の資質向上の、螺旋状の丸を描きながら最終的に向かう方向を書いている。これはとてもわかりやすいのだが、キーワードが流れているのか、どうか。これのキーワードと11ページの本市の目指す教職員像のこの3つの集合体の中身の言葉とどういうふうに記載すれば良いか。連動しているのだが、様々な言葉が使われている。個人的に思ったのは、10ページの学び続ける基礎、これで多分5年研、10年研とかという、経験した年数に応じた研修が出ていて、これはよくわかるのだが、結果的には、学び続けるというのは教職員としては一生で、ひょっとしたら一番下に矢印で学び続ける教職員があって、真ん中の輪のところは少し違う言葉があったほうが良いのかという感想である。</p> <p>もう一つは、向かう方向として、最後が人間力なのか、上の指導力と人間力は並列なのか、違うものなのかということがよく見ると何か不思議な感じがする。同じように、11ページの3つの情熱と力量と人間力、これとの関係ともう一つ思うのは、個人的にはこの3つの集合の真ん中の部分に何か例えば専門職としての教職員とか専門職とか、なんかそんな言葉があっても良いのかと思う。これも感想だが、要は様々な言葉が使われているので、その整理がもう少しあっても良いと思われる。説明がつけばどうということはないのだが。例えば校長先生が学校で、校長だよりや教職員の研修などでおろすとしたら、腑に落ちるような内容が良いという気がする。</p>
<p>教育企画総務課長</p>	<p>○ 今いただきましたご意見については、新しい教育振興基本計画を作っている中で、そういった中で求める教職員像の部分をきちんと整理した上で、わかりやすい形になるようにしていきたいと考えている。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ 11ページの先輩の技や思いの所に、学び続けるというキーワードの中の施策に入って、一番上のすぐれた授業や指導方法を伝えるというところの白いところ、「めあて」と「まとめ」を、ここのレベルは、これよりももう少し高いレベルのほうが良いと思う。例えば、7ページに様々な授業のことが書いてあるのだが、この中で「めあて」などは、6ページに、「まとめ」の徹底を27年度に図りましたというところがある。としたら、今年度以降のところは、「めあて」と「まとめ」というのはもうできているということと、レベル的にもう少し高いレベルで、例えば、そこの白いところは授業力アップなど、そういうレベルの方が良いと思った。また、下のところが同僚性の向上や教職員メンター制度とあるので、少し小さ過ぎるかと思った。「めあて」と「まとめ」ができてないから授業が改善しないというところでスタートしたのだと思うが、レベルが違うということを感じた。感想でいい。</p>
<p>教育研究研修センター所長</p>	<p>○ 「めあて」と「まとめ」については、学校の現場の先生に指導課で作成したパンフレットを使って、研修で具体的に進めているところである。そうすると、先生方の感想の中で、やはり旗を立てて「めあて」と「まとめ」を頑張るんだ、徹底をするんだというふうに号令をかけていただいたのがとてもうれしかったというふうに言われる。</p> <p>反面、「めあて」は何となく徹底はしてきているのだが、「まとめ」の方法</p>

	<p>がいま一つよくわからないというようなこともあわせて聞いている。そのあたりはこれからも徹底していかないといけないと考えている。</p> <p>それから、この「めあて」と「まとめ」のところについては、DVDを撮らせていただくその中に、ただ映像を撮るだけではなくて、「めあて」と「まとめ」はこういった視点を目指してやると良いというようなテロップを入れてしっかり充実したものを作っていこうと考えているので、より一層徹底が図れるのではないかと考えている。</p>
藤原委員	<p>○ そういう意図で重点的にするのであれば問題ないが、行き着くところは授業力アップになるだろうと思う。その辺はいつも唱えていっていないと、いつまでもそこばかりで行き着くところが見えないかと思った。</p>
東條委員長	<p>○ ここまでの説明等によると、「まとめ」のほうはまだまだであり、もう少し具体的にしっかりしてもらった方が良いということなので、ここに上げているということである。</p>
教育長 指導課長	<p>○ 「めあて」もまだまだではないのか。</p> <p>○ 補足しておく、今教育長がおっしゃったように、「めあて」、「まとめ」の形はできている。子どもたちも先生がうったてのところで言ってくれているなというようなところまではできてきているが、中身は、まだ教員が一方的に示すような「めあて」の定義の仕方が一様的ななされているというような現状もあるので、今年度指導課としては、いろんな機会を捉えて、中身のレベルアップ、徹底から充実というような所へ少しレベルアップをして、学校の方へも働きかけをしていきたいと思う。あわせて、「めあて」、「まとめ」だけではなく、その中身について、教員が一方的に講義をするような授業ではなくて、子どもたちが主体的にまた表現すると、そういった授業の充実をしっかりと図ってきたいと思っている。</p>
教育長	<p>○ 授業力という言葉では少しまだぼんやりし過ぎではないかなという気がする。</p>
藤原委員 指導課長	<p>○ 大き過ぎるだろう。</p> <p>○ 昨年度、全国調査等の分析をもとに、授業づくりのアプローチという資料を作って学校へ送付している。28年度はこれまでの「授業これだけは」と合わせて、そちらをしっかりと扱って、学校と協議を進めていきたいというふうに言っている。中身は、子どもたちの課題を解決するための授業の進め方というガイドラインであり、今年はこれでしょうかと考えている。</p>
東條委員長	<p>○ ちなみに、今のような形で資料を配って、学校でいろんな方法を周知している。もちろん話題にはなっていると思うが、先生方へ「こういうものを配ったが知っていますか」という類いの調査は実施しているのか。</p>
指導課長	<p>○ 実は、黙っておくと先生方の引き出しの中とか、立ったままになるケースも多いのだが、機会があるときに、例えば「こちらの研修会で持ってきてください」や、校内研修で出向いたときに「出してください」、「ここですよ」というふうなことでお示しをするとどんどん周知が上がってくるというようなことがある。</p>
教育長	<p>○ 例えば岡山っ子育成条例、今は入学児に全員に配付している。保護者の方へ行き渡っているか、どれだけ読み込んでいるかということはあるが。5年ほど前に、初任研と10年研と、それから教務主任研修会、その3つに行き、「これ知っていますか」と聞くと初任研は数人ばらばらと手が挙がる。10年研だと半分ぐらい、それでも半分。教務主任の会で100%にはならないが、多くの人が挙手をする。今から5年ほど前、岡山市が条例として出し数年たったときのことである。折に触れると言うけれど、例えば今回のこれでも、先ほどから出ているように、もっと取り上げて、こういうものを学校の中で読み合うよ</p>

<p>塩田委員</p>	<p>うな研修会もあってもいいのではないかと思う。</p> <p>○ 良いと思う。きちんと問題を浮出しにして、課題を見つけてやってるというふうに。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 岡山市がこういう方向で今やろうとしているが、「今年はこうなんですよ」ということを周知すれば。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ 塩田委員が言われたのは、採用試験を受ける人にも読んでほしいという意味か。</p>
<p>塩田委員</p>	<p>○ そうである。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ 前も広島の場合を出したが、そういう人たちがこれを持って、勉強して受ける。実際に初任研のときにも使うとしたら、多分ベテランの先生もちょっと焦るというか、初任者の人が知っているのに、自分が知らないというのは、メンター制度とかいろんなことがだんだん実施され出したときにちょっと困るし、恥ずかしいかなというふうなところにまでなると、多分自主的に。だから、なかなか自分から勉強しようと思わないと身につかないと思うので、様々な工夫をしたらいいのではないかと。これはダウンロードしてくださいと受験生には言ってもいいと思う。自分の一生をどういうふうにするかというのは、頑張ってもらえばいいと思うので、いろんな工夫をして欲しいと思う。</p>
<p>奥津委員</p>	<p>○ これはあと、地域や保護者向けの側面もあると思う、特に保護者。教育委員会がどういう方針かということをおおまか程度周知する必要がある。</p> <p>ただ、ダウンロード、このホームページを見るというのはなかなか難しい。こういうのがあるということさえなかなかわからない。例えばだが、学校だより等、保護者宛てに配るものの隅っこに載せたり、「今年こういうのが出ました、ここで見えます」みたいなことを書いて配ってもらったりするなど。市政だよりに載せる等。一般向けへの広報をしても良いと思うが。</p>
<p>教育企画総務課長</p>	<p>○ 今LINE@や広報紙など、教育に関する広報をやっているのだから、そういった媒体を使いながらのお知らせはできると思う。いろいろ工夫はしたいと思う。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ リーフレットは作らないのか。ダイジェスト版で見開きぐらいとか。</p>
<p>奥津委員</p>	<p>○ ホームページで見られるのであれば、そこを見れば良いと思うのだが、多分多くの保護者はあること自体を知る機会がないかなど。少し見てみたいという人も少しはいるかと思うが。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ 後段はなかなか。</p>
<p>塩田委員</p>	<p>○ クローズアップだけで良いと思う。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 考え方があれば良いと思う。</p>
<p>塩田委員</p>	<p>○ そういうように出したいぐらい、このアクションプランは充実してきたと思う。岡山の課題がこれを見ることで浮き彫りになって、それをみんなで、先生はもちろんだけれども、地域の皆さんも共有してやっていけたらという思いはすごくある。</p>
<p>東條委員長</p>	<p>○ 私も今日午前中の授業でこのようなものを作っていますと学生にも宣伝した。スクールカウンセラーではこのようなものである、いじめ専門の教員もあるなど、そういう教育施策というのがある中で活動するものである、先生というのはというのを一応解説はしているのだが、なかなか現物に目に触れるということがない。しかしここでしっかり練って作られていてかつ妥当なのだが、せっかくなのに活用されていないもったいないと思うので、いろんな機会ですりこぼさず進めていって欲しい。先ほどの授業力のことに関しては、もう少し定着や徹底を図っていきたいという意見があつてこういう選択になっているのだろうと思ったので、私はこれで良いと思う。その辺りは来年度のプランにかかわることもあるだろうし、現場をご覧になってどういうふうに伝えるの</p>

全委員	<p>が一番良いかという案なので、ここに書いているものなので。いかがか。 これは、より活用していただけるような形でしていただければという意見があったということをお願いしたいと思う。 それでは、よろしいか。</p> <p>○ <原案可決></p>
-----	--

傍聴の状況		
報 一	道 般	0名 1名